

## 育友会支部懇談会 始まる



▲ 松本会場での出牛学長・理事長

の3日間、38会場で開催される。

46回目を迎えた専修大学育友会の支部懇談会(大瀬利行会長)がスタートした。7月31日、8月1日の両日、全国30会場で開催され、大瀬会長がいわき、郡山の両会場に、出牛正芳学長・理事長が松本、長野の両会場にそれぞれ出席したのをはじめ、教職員多数が全国の会場を訪問し学生生活、進路・就職などについて父母と懇談、有意義な時間を持った。郡山会場では就職懇談会が併催された。今後は、8月8日(日)、21日(土)、22日(日)

【ニュース専修2004年8月号1面】

## 渡辺啓太くん(ネット情報3)に学長賞

全日本女子バレーボールチームのアナリストに  
ーワールドグランプリ・予選ラウンドー



7月に行われた「2004ワールドグランプリ予選ラウンド」川崎・ジャカルタ両大会に(財)日本バレーボール協会からアナリストとして派遣された渡辺啓太くん(ネットワーク情報3・体育会バレーボール部所属)に名誉ある学長賞が7月28日、授与された=写真。アナリストとは相手チームのデータを瞬時に収集・分析し、リアルタイムで試合戦略を組み立てる非常に重要な役割を担う専門家であり、監督との信頼関係がなければ務まらないものだ。学部生として初めてアナリ

スト選出という快挙は学部教育で培った知識と技術が生かされたものとして、坂本實学部長代行から推薦され、本学2組目の受賞となった。「試合前には、数字ではなく、視覚で理解してもらえるようなデータ作成を心がけました」と語る渡辺くんの奮闘記は本紙10月号に掲載予定。

【ニュース専修2004年8月号1面】

## HEIB講座25周年記念シンポジウム

コンシューマリズムと共に幅広いビジネス感覚養成

内外から高い評価を受けている女子学生のための課外講座「HEIB講座」が創立25周年を迎えた。これを記念する公開シンポジウムが4回にわたって行われ多くの働く女性ら延べ526人が参加し盛況だった。運営委員長の大林守商学部教授に同講座誕生時の背景と、今後の展望を聞いた。

HEIB(Home Economists in Business)は、企業と消費者を結ぶパイプ役として、消費者の視点で事業活動をとらえ、市場調査、商品開発、商品テスト、消費者の声を生かす活動などに携わる企業内スタッフをいう。アメリカでは80年の歴史をもつ専門職として位置付けられている。経済・産業優先からコンシューマリズムを重視されるようになった1970年代、日本でも消費者窓口を設ける企業が出始めた。1980年、専修大学ではこういった消費者問題に明るい人材を育成するためのHEIB講座を他大学に先駆けて発足。年々増加傾向にある女子学生のために就職対策や研究会組織を設ける必要性からも期待された。当時そのユニークな発想内容が全国紙、テレビでも紹介され、話題になった。

同講座は着実に実績を上げ、「時代の変化の中でコンシューマリズムを基本に置きながらも幅広いビジネス感覚を身につけることを目的とする方向へとシフトしていった」(大林委員長)という。各界で活躍する著名人を招いてマーケティング、経済、消費・流通に関する多彩な講義が展開されるほか、企業訪問などフィールドワークも積極的に実施されている。実社会で役立つ女性として必要な資質を磨く講座内容も充実。「女性総合講座」として、カッコたるスタイルを貫いている。大林委員長は「25周年を節目とし、今後の方向性を探っていきたい。その一つとして地域社会の教育活動の向上に貢献することも視野に据え、門戸を開放し、学生ばかりでなく学外向けに講座の一部を開放することも恒常的に行っていきたい」と話している。

### 記念シンポ盛況

25周年記念シンポジウムは6月17日から7月8日までの毎週木曜日、「21世紀のコンシューマリズム」を統一テーマに、各界で活躍中の4氏による講演がかんだキャンパスで行われた。最終日には懇談会が催され、初代指導委員長として解説当時から学生の指導に当たってきた出牛正芳学長・理事長や卒業生、歴代の外部講師も加わり、和やかに懇談した。

### 卒業生・学生の声

山ノ井裕子さん(平12経営・HEIB講座OG)

実のある課外授業に取り組んでみたいとHEIB講座に入会、3年次の時には学生代表を務めました。毎回、講師の先生に代表として緊張してあいさつしたことが懐かしい思い出です。活動を通して積極的にチャレンジすることの大切さ、さまざまな考えを持つ人々とどうやってひとつのものを作り出していくかを学びました。現在、大気観測のプロジェクトを進めている日航財団に勤務し、大学の教授、研究機関の研究者の方々と共に仕事をしておりますが、当時の経験と共に先生、学生仲間、スタッフの方々からのアドバイスが今の日常の仕事の中に生かされていると思います。

雪下恵梨香さん(文3・HEIB25周年記念シンポジウム学生チーフ)

記念シンポジウムを開催・運営するにあたっての学生会員たちのまとめ役を務めました。どちらかというと活動には受け身で取り組んできたのですが、先輩から「あなたの情熱をぶつけてみなさい」と勧められチャレンジしました。「HEIB講座」は、ビジネスマナーを学ぶなど実践的な講座も役に立つのですが、夢を持って地球規模で活動している人の体験談も聞いて、視野が広がります。個性が磨かれる講座だと思います。さまざまな分野で活躍している講師を迎えての記念シンポの内容も充実しており、刺激を受けました。



## キャンパス探訪<18>

アートの旅

『フィレンツェ回想』

『風車のある風景』



『フィレンツェ回想』



『風車のある風景』

イタリア中部の都市フィレンツェは、ルネサンス文化の中心都市。有力貴族メディチ家の保護のもと15世紀末まで繁栄を誇った。その街並みが、破れ、開かれた紙の中から現前する。民家の中から屹立する大聖堂、鐘楼…。赤い屋根を基調にした遠景が幻想的だ。ルネサンスは、やがて欧州全域に広まり、17世紀にはスペインへ。風車に立ち向かう「ドン・キホーテ」の物語を書いたセルバンテスの活躍した頃である。『風車のある風景』は丘の上に建つ4基の風車を背景に、集落を描く。スペインの風景であろうか。やはり赤茶けた屋根。この色調の共通性は何か。画家は元第一美術協会会員の河瀬洸。平成3年に寄贈された、共に100号の大作である。生田校舎8号館1階ロビーに向き合うように展示されている。

【ニュース専修2004年8月号1面】